

ワールド ウッド トレンド

No. 5, 29 AUGUST 2016

1. 台湾における今年上半期の主要木材製品の輸入量

台湾における 2016 年上半期の国内景気は、前年以来低迷が続いている。加えて住宅建設市場の不振や住宅取引市場の低迷は、木材製品の需要減を招いている。その結果、各種木材製品の輸入量は、表 1 に示すとおり全面的に下落傾向となっている。

表 1 台湾の今年上半期の主要木材製品輸入量

品目	2016 年 1~6 月 (m ³)	2015 年 1~6 月 (m ³)	前年同期比 (%)
原木	257,081	316,566	-18.8
製材品	583,504	681,485	-14.4
合板	282,938	351,541	-19.5
ブロックボード	4,776	4,870	-1.9
単板	97,526	140,549	-30.6
ランバーコア	150,017	161,145	-6.9
パーティクルボード	138,644	155,692	-10.9
ファイバーボード	73,276	75,618	-3.1

(1) 原木

今年上半期の原木輸入量は、表 2 に示すように、約 257,000m³にのぼり、前年同期と比較して 59,400m³、18.8%の減少となった。仕入先別にみると、マレー

シアからの輸入が減少を続け、約 28,400m³の減少（22.2%減）、日本からの輸入が約 13,000m³の減少（27.8%減）、パプアニューギニアからの輸入が 20,300m³の減少（58.7%減）となっている。

日本産原木の輸入量は今年上半期に約 33,900m³で、月平均輸入量は約 5,650m³となっており、前年同期の月平均 7,820m³と比べて約 27.7%減少している。主な原因としては、台湾における住宅建設市場の景気低迷による型枠用木材の需要減にあり、輸入企業はスギ原木の輸入を控えているとみられる。

表 2 台湾の今年上半期の原木輸入量（仕入国別）

仕入国	数量 (m ³)	シェア (%)	仕入国	数量 (m ³)	シェア (%)
マレーシア	99,625	38.75	パプアニューギニア	14,311	5.57
ニュージーランド	59,853	23.28	その他	32,854	12.78
日本	33,902	13.19	合計	257,081	100
ソロモン諸島	16,536	6.43			

（2）製材品

今年上半期の製材品輸入量は、表 3 のとおり約 583,500m³で、前年同期と比べて約 97,900m³、14.4%の減少となった。内訳は、カナダからの輸入が約 23,400m³減少（9.6%減）、米国からの輸入が約 2万 4400m³減少（27.3%減）、マレーシアからの輸入が約 24,900m³減少（40%減）となっている。輸入減少の主な原因は、台湾からの輸出が前年同期と比べ 9.1%減少したことに加えて、国内の需要もやや減退しているとみられる。

表 3 台湾の今年上半期の製材品輸入量（仕入国別）

仕入国	数量 (m ³)	シェア (%)	仕入国	数量 (m ³)	シェア (%)
カナダ	221,502	37.96	ニュージーランド	39,324	6.74
欧州	71,880	12.32	中南米	27,323	4.68
米国	65,212	11.18	その他	61,328	10.51
マレーシア	55,619	9.53	合計	583,504	100
オーストラリア	41,316	7.08			

(3) 合板

今年上半期の合板輸入量は、表4のとおり約282,900m³で、前年同期と比較して約68,600m³減少し、減少幅は19.5%であった。内訳は、中国からの輸入が約61,900m³の減少(37.9%減)、マレーシアからの輸入が約39,700m³減少(31.6%減)となり、一方、インドネシアからの輸入は約31,600m³の増加(64.7%増)となっている。マレーシアではここ数年、原料や製品の価格が上昇しており、インドネシア産の合板価格が相対的に安くなっていることから、マレーシア産の一部がインドネシア産に代替されている。

表4 台湾の今年上半期の合板輸入量(仕入国別)

仕入国	中国大陸	マレーシア	インドネシア	ロシア	その他	合計
数量 (m ³)	101,383	85,891	80,532	6,729	8,403	282,938
シェア (%)	35.83	30.36	28.46	2.38	2.97	100

(4) ブロックボード

今年上半期のブロックボードの輸入量は4,776m³で、前年同期相当であった。主な輸入先は、相変わらず中国大陸である。

(5) 単板

今年上半期の単板輸入量は、表5のとおり約97,500m³となり、前年同期と比較して、約43,000m³、30.6%の減少となった。内訳は、マレーシアからの輸入が約19,500m³の減少(33.3%減)、中国からの輸入が約9,500m³の減少(50.4%減)、ベトナムからの輸入が約3,000m³の減少(12.3%減)となっている。台湾に輸入された単板は主にブロックボード製造用に供給されているが、前年以降ブロックボードが供給過剰となっているため、輸入単板の一部は合板製造に振り向けられている。とはいえ合板市場の需要も縮小していることから、単板の輸入もかなり落ち込んだ。

各地域から輸入される単板の樹種や用途には違いがある。マレーシアやパプアニューギニアからの輸入単板は主にラワンや熱帯雑木であり、表板、添え心板に使用される。中国やベトナムからの輸入単板は主にユーカリであり、添え心板と使われる。ニュージーランドやチリからの輸入単板は主にラジアータパインであり、枠材用LVLの製造に使用される。

表5 台湾の今年上半期の単板輸入量（仕入国別）

仕入国	数量 (m ³)	シェア (%)	仕入国	数量 (m ³)	シェア (%)
マレーシア	39,108	40.10	チリ	6,719	6.89
ベトナム	21,907	22.46	パプアニューギニア	3,636	3.73
ニュージーランド	9,358	9.60	その他	7,455	7.64
中国大陸	9,343	9.58	合計	97,526	100

(6) ランバーコア

今年上半期のランバーコアの輸入量は、表6のとおり約150,000万m³で、前年同期と比較して約11,100m³、6.9%の減少となった。内訳は、インドネシアからの輸入が約8,800m³の減少(5.8%減)、マレーシアからが約2,600m³の減少(40.7%減)となっている。ブロックボードの国内需要が20~25%縮小しているため、その製造原料であるランバーコアの輸入減につながった。

表6 台湾の今年上半期のランバーコア輸入量（仕入国別）

仕入国	インドネシア	マレーシア	ベトナム	その他	合計
数量 (m ³)	142,362	3,907	1,621	2,127	150,017
シェア (%)	94.90	2.60	1.08	1.42	100

(7) パーティクルボード

今年上半期のパーティクルボードの輸入量は、表7のとおり約138,600m³で、前年同期と比較して、約17,000m³、10.9%の減少となった。そのうち、タイからの輸入が約7,000m³の減少(15.1%減)、ルーマニアからの輸入が約6,700m³の減少(20.6%減)、ベルギーからの輸入が約10,200m³の減少(41.9%減)と著しい減少を見せている。パーティクルボードの輸入は2014年にピークを迎えた後次第に減少してきたが、今年上半期には14万m³近くの輸入量があり、これまでのピークとなっている。

表7 台湾の今年上半期のパーティクルボード輸入量（仕入国別）

仕入国	数量 (m ³)	シェア (%)	仕入国	数量 (m ³)	シェア (%)
タイ	39,830	28.73	トルコ	8,549	6.17
ルーマニア	25,911	18.70	フランス	7,438	5.36
ベルギー	14,193	10.24	その他	18,825	13.57
カナダ	13,454	9.70	合計	138,644	100
オーストリア	10,444	7.53			

(8) ファイバーボード

今年上半期のファイバーボード輸入量は表 8 のとおり約 73,200m³で、前年同期と比較して約 2,300m³減少したが、減少幅は約 3.1%と限定的である。

ファイバーボードの需要は 2006 年から減少傾向をたどっており、その多くが合板やパーティクルボードに代替されていて、ここ 2 年の供給量は年間 14 万～15 万 m³ほどとなっている。市場関係者は、この 2 年間の木材市場の不景気の下でも今年上半期は 7 万 m³以上の輸入を維持しており、市場需要の落ち込みは底を打ったと見ている。

表 8 台湾の今年上半期のファイバーボード輸入実績（仕入国別）

国別	数量 (m ³)	シェア (%)	国別	数量 (m ³)	シェア (%)
タイ	38,043	51.92	フランス	3,084	4.21
マレーシア	8,598	11.73	韓国	2,388	3.26
インドネシア	5,900	8.05	その他	4,721	6.44
ニュージーランド	5,501	7.51	合計	73,276	100
中国大陸	5,041	6.88			

上述の今年上半期の木材製品の輸入量から、台湾の木材市場の景気は 2015 年と 2016 年上半期には全体的に低調であったと伺われる。特に今年は政権交代があり、新政権の経済の安定運行までは時間が必要であることから、今年の経済全体の先行きについては楽観できず、2017 年も同様に大きな不確実性があると業界内では見られている。

2. 台湾のLVL業者が日本のLVL業界を視察

台湾のLVL製造企業や輸入企業が参加した「台湾のLVL生産企業視察団」（团长：台湾合板製造輸出業同業公会の劉 光荣理事長）は、今年5月30日～6月2日にかけて日本のLVL業界を訪問した。

東京都新木場の「木材・合板博物館」、KEY-TEC 木更津工場、公民館におけるLVLの実際の使用状況を見学したほか、日本の全国LVL協会との意見交換などを行った。

今回の工場・利用事例の視察や意見交換により、日本では木造建築の割合が高いため、LVL製品も幅広く用いられており、大型の構造材から枠材、内装製品に至るまでさまざまなLVL製品が生産されていることがわかった。

それに対して台湾のLVL製品は建具・内装用の枠材が中心である。LVL材は2004～2005年ごろから市場に流通しはじめたが、当時は東南アジア産原木を材料とした無垢の角材が市場の主流だったため、LVL材はそれほど注目されなかった。しかし、原木供給の減少や価格の高止まりにより、市場から注目を集めるようになり、現在では広範に使用されるようになった。現在の年間使用量は（2015年を例にとると）、国内製造量が約10万～11万m³、海外からの輸入量が約5万～6万m³、合わせて16万～17万m³と推計されている。台湾国内で製造されるLVLの原料は主にラジアータパインで、輸入量の大半は中国産ポプラが主となっており、そのほかインドネシア、マレーシア産の熱帯雑木もある。

台湾におけるLVL産業の製品開発や利用は未だ初期段階にあり、今回の視察と交流を通じて、台湾企業は認識を新たにできたと同時に、日本と台湾のLVL業界における今後の相互交流のプラットフォームを作ることができたと考えている。

（本文は現地レポートを基に編集したもの）